

自己評価結果公表シート

【法人理念】

「大慈愛心」親が子に抱くような慈しみ愛する心
大きな慈愛の心をもって皆様と向かい合います。

【保育理念】

「仏教」を基本理念とし、子ども一人一人を大切にし、保護者からも信頼され、地域に愛される園を目指します。

【保育目標】

「健やかな心」を育てるために

1. めぐみの心を持ち、命を尊重する子 《生命尊重》
2. 善悪を見極め、絶えず正しい方に進む子 《修善》
3. 自分の立場を考え、他と協調できる子 《協調》

【評価項目の達成状況】

令和5年度も、全国保育士会作成の「保育所・認定こども園等における人権擁護のためのセルフチェックリスト ～「子どもを尊重する保育」のために～」を使用し、おこないました。結果、現状の保育における不適切な関わりは報告されませんでした。
また、東洋大学 高山静子先生の研修会「保育内容をどう展開するか～保育の専門性に基づいて」を視聴しての感想も記載しております。

自己評価を振り返り

保護者アンケートを通じての感想

保護者のアンケートを見て、嬉しい意見もたくさんあったが、満足されていない保護者もいることを改めて思った。日々の保育を見直し、保護者の方が少しでも安心して子どもを預けることのできるような保育をしていきたい。
保護者に全ての項目を納得してもらう事は難しいと感じた。
あゆみ園の方針に共感して頂いている方が多く、期待に添えるよう保育していきたいと感じた。子ども達を安心して預けて頂けるように保育すると共に、保護者との関わりも大切にしていきたい。
保護者の意見を見て改善できるところは心がけていきたい。
ノーメディアデーがなかなか難しい家庭が多いのを感じ、園で絵本を読む時間を大切に、保護者の方にも伝えて行けたらいいと感じた。
保護者の皆さんが我が子を大切に思っているからこそそのご意見だと思う。
今年度も引き続き、保育園での事故や不適切保育についての話題が多かった為、保護者の意識も高まっているように思う。
職員間の雰囲気等が不適切保育につながる要素もあると考えている方もいたので、職場の雰囲気作りに携わりあゆみ園の雰囲気がより良いものになるといいと思った。
いつも笑顔で子ども達と接してられるように、良い事だけでなく、言いにくい事も話し合える雰囲気作りを心がけていかなければならないと感じた
保護者の目線から、自分達の保育がどのように見えているのかを知り、その出来事が子どもの成長にどう関わってくるのかを考えた。また保護者への伝え方を考えると共に、安心して預けてもらえる保育や対応を心掛けていきたい。
積み木遊びでの援助を気にかけて、子ども達同士で提案や考える時間を作ることができるよう声掛けをしていきたい。また、保護者にも、子ども達にどんな対応をし、結果どんな姿が見られているのか伝えていきたいと思った。
普段あまり迎えに来られない祖母の方だったので声をかけてみたところ、帰りの支度に戸惑っていたのを感じられた。ちょっとした声かけをすることでそのような気づきができ、援助できたりするのでどの保護者にも平等に声をかけていき、どの保護者の方からも声を掛けやすい保育者でありたいと思う。

給食アンケートを通じての感想

四季を感じる行事やその日に合わせた献立。種まきから収穫 クッキングやマナー、食育全てを子どもさんを通して保護者に伝わっていることが嬉しく思う。
給食楽しみにしている子や、おいしいと感じている子が多く嬉しく思う。そう思ってくれている子が幼児さんには多く、残食がほとんど無いと改めて思った。
好き嫌いがある園児も給食で食べられたから、家でも挑戦してくれているという意見も多かったので、在籍している間に少しでも嫌いなのが減るように美味しい給食を提供し、嫌いなのが少しでも減ってくれたらいいなと思った。そして、「完食したよ！」など教えてくれる園児に対して完食が自信になるような声掛けを今後も心掛けていきたいと思う。
献立表やお便り等にはあまり興味を持っていない方もあるようで、もっと食に関心をもてるようにしたいと感じた。食事の困り事については、お便り等で伝えるだけでなく、保育者から園での取り組みや様子を伝えるのも1つの方法だと思う。

高山静子先生の研修会「保育内容をどう展開するか～保育の専門性に基づいて」を視聴しての感想

保育の質の差は、各園保育者が展開際に生じる。という内容がとても印象的だった。
毎日過ごしている中で、時間に追われる感覚になる時がある。日々クラス内で話し合い前年度の資料を参考にしながら、今年度の子ども達の姿にあった日課を考え直している。そうすることで気持ちにゆとりが出来、不適切な保育に繋がらないようにと思っている。上手くいかないときもあるが、自分が手本となるよう丁寧な関わりができるようにと心掛けている。
子どもがみんな違うように保育者も違うので色々な経験や知識を持ち寄って協力していきたい。日々学ぶ意識を持って自分の保育を振り返るようにしたいと思った。
YouTubeで幼児用動画が流れているが、幼児期に必要な動きもたくさん含まれているということを知った。昭和の保育→令和の保育へ変換されてきている。
集団行動の中で、なかなか切り替えの出来ない子や思い通りにいかず拗ねてしまった子等、その時の状況に合わせ、クラスの先生と連携をとって出来るだけその子のペースに合わせ待ったり、落ち着いたら話を聞いたりして、その子が納得できるようにしている。しかし、自分の対応が完璧とは言えない場面もある。
絵本から遊びに発展できるようにするには、環境の整理、子ども達の姿を見て行っていくことはとても大切だと改めて思った。
クラス事や1年1年、子ども達の姿は異なるが、クラスに置く絵本の中で、子ども達が興味を持ったものがあったら、他職員に伝え合い、今後の保育がより良いものになるようにしていきたい。
保幼小中の研修に行くと、先生方が教育について専門的に伝えていることが多く、その場に行くと「もっと勉強しなくてははいけない」と度々思った。井の中の蛙大海を知らずでいてはいけないと常を感じる。今の状況に満足することなく、自分自身が視野を広くもち学び続けて行きたい。
時にはルールという言葉にとらわれ、子どもの意思を尊重できなくなってしまっている場面がある。ルールや躰ばかりにとらわれてしまうと子ども達に対しての適切な配慮を見失ってしまう為、今一度自分の保育を見直していきたい。
あゆみ園の保育内容なら、不適切な保育は生まれないと思っている。保育者同士、ストレスを抱えないよう、コミュニケーションを取り合い、時間を有効に使って勤めていきたいと思う。
保育は他の保育者と連携して行うものである。その為には人間性が大切となる。それは子どもや保護者に対しても繋がるものである。自身の人間性を今一度見つめ、保育に対する姿勢、知識と共に高めていきたい。
「保育が変われば未来も変わる・子ども達も幸せ、先生達も幸せ」を常に頭の中におき、もっともっと理論を学び、質の高い本を読む…今後の私の課題である。
秋頃からは子どもたちとじっくりとわらべうたを楽しむことができた。最初は保育者対子どもで行っていたが、子ども同士でもできるようになって遊びが変化していった。わらべうたには色々なメリットがあることを、この研修を通じて改めて感じる事ができた。

【職員の自己評価をふりかえり】

2年続けて同内容で保育を繰り返ることで、不適切保育というものを意識したこの一年の保育を見直せたのではないかと思います。
ただ、自己評価はあくまで自己の振り返り。元プロ野球選手の野村克也氏は、「自己評価は何の役にも立たない。社会で生きている以上はまわりからの評価で人生は成り立っていく。だから、まわりをしっかり評価される人間性、生き方をしなければならない」と、おっしゃっていました。
皆様からの信頼を得て、今後も子どもたちのために丁寧な保育を心掛けていきたいと思っています。

園長 野中徹